

国立防災科学技術センター研究報告の 創刊にあたって

国立防災科学技術センターは近く創立満5周年を迎えますが、ここに「国立防災科学技術センター研究報告」シリーズの創刊をみたことはまことに喜びとするところであります。

当センターは、主として天然現象に起因する防災科学技術に関して、研究、共用施設整備、資料収集整理等多方面の業務を行なっていますが、研究分野の報告では、従来、関係各省庁試験研究機関との共同研究による「防災科学技術総合研究報告」その他のシリーズが発刊されているにすぎませんでした。今回のシリーズの報告は、当センターの所員が自ら行なった研究成果を集録したもので、研究機関としては最も重要な報告であり、その創刊がむしろおそきにすぎたきらいがあります。

防災科学技術は、研究対象において台風災害、水害、雪害、震災、干冷害、公害等多方面にわたってきわめて複雑多岐な内容をもっております。したがって、その研究方法においても理学・工学・農学等自然科学系の学問を必要とするのはもちろんのこと、社会・経済の点もあわせて考察しなければならないほど、広範な分野にわたるものであり、いまだ防災科学技術の体系が確立されていない現状であります。

この報告シリーズが、わが国の防災科学技術研究の困難性を克服し、一層前進させ、あわせて災害国日本の防災事業にいささかなりと貢献することを得るならば望外の喜びとするところであります。

ここに、国立防災科学技術センター研究報告第1号の刊行にあたって一言所感を述べて、今後とも、各位のご支援をお願いするしだいであります。

昭和43年3月

国立防災科学技術センター所長

寺田一彦